

目的 先の発表で石膏の型取りを実施した被験者について、同一実験条件下で①期～⑥期 (⑤期の2時間後、その1参照) にわたってウエストベルト圧を測定した。

方法 圧測定は、液圧平衡方式を用いて、型取り実施日に近接した同一月経高温期に行った。ベルト (幅2.5 cmのインサイドベルト) 長は、各被験者のジャストフィット長を基準として、これより2.5%短くした。圧測定部位は被験者の右半身のウエストライン上のA: 前正中線から3 cm体側寄り、B: 乳頭線、C: 体側線、D: 肩甲線、E: 後正中線から3 cm体側寄りの5部位である。なお、自然・腹式呼吸時の立位や椅座位における、静止時と屈曲時のベルト圧を測定した。

結果 圧値は被験者全員例外なく、朝・昼食ともに食後 (②期・⑤期) 高くなった。6人中4人の被験者では⑥期での圧値は⑤期のそれより低かったが、残りの2人では高かった。これは代謝時間の個人差等によると考えられるが、詳細は検討中である。また、立位より椅座位で、自然呼吸時より腹式呼吸時で、静止時より屈曲時で圧値が高くなった。立位の自然呼吸時において、測定部位ごとに、体表面積の増減 (被験者6人) と圧値との相関係数を求めたところ、係数0.8以上の組合せは全体 (60通り) の1割弱と少なかった。これは食物摂取等の影響で体容積が増加しても、ベルト下の皮下組織がベルトから逃れたためと思われる。このため、ベルト圧の部位差は体表面積の増減の部位差では説明がつかず、体表の粘弾性等の他の因子を検討する必要がある。なお、平均ベルト圧と周径との関係についても述べる。